

# 本学創立107周年式典

## 日本歯科大学新聞

東京千代田区富士見  
日本歯科大学新聞会  
発行兼 中原 泉  
編集人 偶数月末日  
発行日 1部10円  
定価 (〒951-8580)  
編集室 (〒951-8580)  
新潟市中央区浜浦町1-8  
☎025(267)1500



メリーランド大学の校章



日本歯科大学創立107周年記念式典

最大の歯科大学として創立107周年を迎え、喜びを語る中原泉理事長

### 二百余名が参列

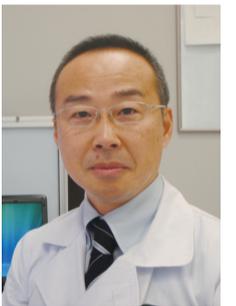
本学の創立一〇七周年記念式典は、六月一日の創立記念日に東京富士見で挙行された。メリーランド大学歯学部長のクリスチャン・ストローラー教授への名誉博士号授与式もあわせて行われた。

日本歯科大学創立一〇七周年記念式典は、六月一日、来賓、教職員、卒業生、学生等三百余名が参列して、生命歯学の米沢登事務所長が開式を宣し、筑土神社祭司が神事を執り行った。本学の一世紀余の沿革

### ~Best~ティーチャー賞



影山教授(新潟)



小林教授(東京)

平成二十四年度ベストティーチャー賞に、小林隆太郎教授(附属病院口腔外科)と影山幾男教授(新潟生命歯学部解剖学第一講座)が受賞し、六月一日の創立記念式典で表彰された。両学部のベストレクチャー賞の三年間の受賞者から、一名づつ選ばれた。☆平成二十四年度ベストレクチャー賞受賞者(生命歯学部) ○医療管理学(二年前期)

小林隆太郎(口腔外科教授) ○先端歯科医療(二年前期) 中原 貴(発生・再生医学教授) ○総合基礎歯学(四年後期) 宮坂 平(歯科理工学教授) (新潟生命歯学部) ○解剖学(二年後期) 影山幾男(解剖学I教授) ○保存修復学(六年後期) 鈴木雅也(歯科保存学II講師) ○ヒトの一生(一年後期) 関本恒夫(小児歯科教授)

が祝詞で奏上されたのち玉串奉奠に移り、中原泉理事長・学長がホール壇上に設けられた神前に進み出て玉串を奉奠。参列者は二礼二拍手一礼をもつて同拝した。参列者を代表して、中原レチ子、沼部幸博、藤井一維、湯浅太郎各理事がおの玉串を捧げた。神職の退場のあと、中原理事長は本学創立一〇七周年を迎え、式辞を述べた(要旨は一面に掲載)。

ついで近藤勝洪校友会長が挨拶に立ち、一週間前の五月二十五日に校友会の定時総会で、校友会長として再選された。あと三年たつと一〇〇年という節目となる。総会では、母校日本歯科大学の一〇〇周年に対して校友会として事業を行うことについて承認を得た。また昨年からは中原市五郎先生の伝記編纂委員会を立ち上げた。大学側の全面的な協力を得ながら、歴史に残る伝記を刊行する予定である。校友会は母校の限らない発展を願い、ともに歩んでいくこ

とを誓い、挨拶に代えた。つづいて名誉博士号授与式にうつり、中原学長が「一〇〇周年の式典にストローラー先生を来賓としてお迎えした。姉妹校のメリーランド大学歯学部である。同大学の前身は、世界で最初のボルチモア歯科大学である。創立者の中原市五郎先生は、一九一五年にこのメリーランド大学から名誉博士の称号をいただいた。ストローラー先生は、本学の姉妹校でもあるベルン大学歯学部を卒業された。ミシガン大学の助教授をされ、二〇〇三年にメリーランド大学の歯学部長に就任され、現在十二年務めている。たいへんな英才である。奥様も同じくベルン大学歯学部の同級生だ。その世界で最初の歯科医学部の歯学部長に、本学の第十六号の名誉博士号を贈呈したい」と述べ、日本語と英語で記した学位記を手渡した。つづいてストローラー名誉博士が、志賀博教授(生命歯学部補綴学第一



学位記を手にするストローラー名誉博士を中央にベルン大学同級生のストローラー夫人、中原学長

増患、増点、増収をもたらす

## 患者納得診療

著 高橋英登 (第66回卒業/東京都杉並区・井荻歯科医院)

- 歯科の社会保険診療報酬は著しく低く抑えられている。長く続いたデフレ経済の中で患者も減っている。反面、歯科医院の競争はますます激化している!
- そんな環境にあって「国民の生活を支える歯科医療」をどう進めていけばよいか!

- 内容
- I章 歯科界が置かれている現状を知る
  - II章 患者を知る
  - III章 保険で可能な「患者のための確実な歯科診療」
  - IV章 増患、増点、増収が可能な歯科医院づくり
  - V章 自費診療にも強くなる
  - VI章 超高齢社会への対応

B5判・134頁・臨床例はカラー対応 定価2,940円(本体2,800円+税5%)

### 増患、増点、増収をもたらす 患者納得診療

◎高橋英登



HVORON

株式会社HVORON・パブリッシング

東京都千代田区神田町2-8-3 第25中央ビル Tel.03-3252-9261~4 Fax.03-3254-3876

原家が三世代にわたり、アカデミックなリーダー、私たちは歴史ある日本歯科科学は、



シブを育ててきたことに直接立ち会い、貴学の建学の精神を知ることができた。日本歯科大学は世界最大の歯科医療機関であり、その大学から名誉学位の授与を認められたことを光栄に思う。そしてベスト・ティーチャー賞の表彰式が行われ、生命歯学部の小林隆太郎教授と、新潟生命歯学部の影山幾男教授に表彰状が贈られた。ついで永年勤続者表彰にうつり、三十年勤続十七名、二十年勤続十九名の氏名が読み上げられて壇上、中原理事長から代表に表彰状が手渡された。表彰者を代表して、羽村章教授(生命歯学部長・高齢者歯科学)は、「私たちは歴史ある日本歯科科学は、

科大で仕事ができ本当に幸せだと思っ。これからも全教職員が誇りをもち働ける職場であるよう、そして全学生たちが誇りをもつ学校であるよう、さらに本学で働き学びたいという全ての人たちに、歴史と誇りある本学の魅力を伝えたい」と謝辞を述べた。おわりに参列者全員で校歌を斉唱し、十一時五十分閉式した。<永年勤続者表彰、謝辞を述べる羽村歯学部長

# 退任教授の最終記念講義 白川・佐藤教授(東京) 下村・芳野教授(新潟) ファイナル Best レクチャー!



白川教授は昭和四十七年本学卒業(第六十一回卒)。同年十月東京慈恵で開催された。

白川教授は昭和四十七年本学卒業(第六十一回卒)。同年十月東京慈恵で開催された。



白川教授の講演に聞き入る聴講者

白川 正順教授(附属病院口腔外科)の最終記念講義「口腔外科との42年―医学と歯学の融和を目指して―」は、六月二十日午後五時四十五分から九段ホールで開催された。

会医科大学歯科学教室助手、講師、助教授を経て、平成八年一月、本学歯学部口腔外科教室第一講座教授に就任。附属病院総合診療科、口腔外科教授をつとめた。

下村 浩巳教授(新潟生命歯学部生化学講座)の「有機合成をチョッピリ、生化学を少々」は、七月十二日午後四時よりアイヴィホールで開催された。



日本歯科大学新潟生命歯学部 独語教授 芳野 昇  
「カフカの『城』の研究とドイツ語教育をめぐる28年」

佐藤 田鶴子教授(生命科学講座)の最終記念講義「口腔外科学 広くそして長い道」は、七月三日午後五時半から九段ホールで開催された。

佐藤教授は昭和四十三年本学卒業(第五十七回卒)。同年六月歯学部口腔外科学教室第一講座助手、講師、助教授を経て、平成十三年一月口腔外科学教室教授に就任。大学院生命歯学研究科長などを歴任した。

芳野 昇教授(新潟生命歯学部ドイツ語)の最終記念講義「カフカの『城』とドイツ語教育をめぐる28年」は、八月二十九日午後四時半からアイヴィホールで開催された。

芳野 昇教授(新潟生命歯学部ドイツ語)の最終記念講義「カフカの『城』とドイツ語教育をめぐる28年」は、八月二十九日午後四時半からアイヴィホールで開催された。

## 中原 泉理事長 式辞(要旨)

十年ほど前に文部科学省が規制緩和を行ったとき、大学は特色を出せ、特徴を持つと言った。そこで一〇〇周年の年に、歯科大学としては世界最大であるというスローガンを打ち出した。そうした内外から大きなことを言うな、嘘をつくなという声を沢山いただいた。ご承知のとおり日本歯科大学には、日本歯科大学、東京短期大学、新潟

## 世界最大の歯科大学

短期大学、この三つの大学がある。私立歯科大学・歯学部十七校の中で、歯科技工士養成の短大があるのは本学一校のみだ。歯科衛生士養成の短大があるのは本学だけである。また東京と新潟に二つの生命歯学部を有し、大学院研究科も二つある。附属病院が三つあり、昨年九月には診療所が一

つ増えた。公的な博物館をも持つ。専任の教職員が総数で千名、学生の総数が一千九百名である。日本歯科大学が世界最大ということは、すでに定

都市再開発法という法律がある。それに申請して通ると、今まで持っていた土地建物に相応する床面積を、再開発で新しく建てたビルのなかに、お金をかさねてお

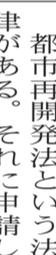
お金を出さずにお店屋さんたちも、新しいビルの中でやりたいという気持ちが強くなっている。そのエリア最大の地権者は日本歯科大学なので、私どもの発言力が大きく左右する。(6月1日)

ところが道路をはさんだ反対側、附属病院がある富士見二丁目三番街区のエリアが焦りはじめ、新しく再開発協議会を

この再開発協議会は一

この再開発協議会は一

## △熱弁をふるう下村教授



都市再開発法という法律がある。それに申請して通ると、今まで持っていた土地建物に相応する床面積を、再開発で新しく建てたビルのなかに、お金をかさねてお

お金を出さずにお店屋さんたちも、新しいビルの中でやりたいという気持ちが強くなっている。そのエリア最大の地権者は日本歯科大学なので、私どもの発言力が大きく左右する。(6月1日)

ところが道路をはさんだ反対側、附属病院がある富士見二丁目三番街区のエリアが焦りはじめ、新しく再開発協議会を

この再開発協議会は一

この再開発協議会は一

## 芳野 昇教授(新潟生命歯学部ドイツ語)の最終記念講義「カフカの『城』とドイツ語教育をめぐる28年」

芳野教授は昭和四十三年新潟大学文学部卒業、四十五年立教大学大学院文学研究科修了。六十一年四月本学新潟歯学部助教授を経て、平成元年四月教授に就任した。(写真上・カフカ研究の第一人者芳野教授の最終記念講義)

永年勤続者  
☆三十年勤続表彰(生命歯学部)  
羽村 章(高齢者歯科学) 代居 敬(歯科放射線学) 橋本修一(共同利用研) 金子登志江(人事部) (附属病院)  
武井正己(歯科技工室) 小林邦枝(歯科衛生士室) 柳井和枝(歯科衛生士室) 渡部裕子(歯科衛生士室) (新潟生命歯学部)  
小出 馨(歯科補綴学Ⅰ) 本宮由比子(庶務部) (新潟病院)  
永田和裕(総合診療科) 宮島孝子(看護科) 松岡恵理子(歯科衛生科)

五十嵐文雄(耳鼻咽喉科学) 山田麻里子(用度管理) 飯田 新(用度管理) (新潟病院)  
宇野清博(総合診療科) 佐々木善彦(放射線科) 小林裕子(看護科)

田中伸枝(看護科) 渡部麻紀(看護科) 岩嶋秀明(歯科技工科) (東京短期大学)  
富田 淳(歯科技工学科) 印出光宏(事務室)

## 新設 在宅歯科医療 専門の歯科衛生士養成へ

日本歯科大学新潟短期大学(又賀泉学長)では、平成二十六年(二〇一四年)より、従来の専攻科歯科衛生学専攻科に加え、「専攻科在宅歯科医療学」と「専攻科がん関連口腔ケア」の専攻科を新設することになった。

要介護高齢者に対する口腔衛生管理により、嚥下性肺炎の発症率が減少することが報告されている。一方、要介護高齢者の七十四%において歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科治療を受けた者は二十%に過ぎない状況にあるという調査結果があり、要介護高齢者に対する訪問歯科診療の必要性が叫ばれている。

日本歯科大学新潟病院では、一九八七年から地域での在宅歯科診療を始めて、在宅歯科診療チームを設立し、歯科訪問診療を実施している。

近年、がん治療の現場では、がん患者の劣悪な口腔環境が関連した様々な合併症により、治療完了率の低下や入院期間の延長、QOLの低下が生ずることが問題視され、患者の口腔衛生環境の改善・保持と歯科的管理の重要性が増している。

## 在宅歯科医療 専門の歯科衛生士養成へ

要介護高齢者に対する口腔衛生管理により、嚥下性肺炎の発症率が減少することが報告されている。一方、要介護高齢者の七十四%において歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科治療を受けた者は二十%に過ぎない状況にあるという調査結果があり、要介護高齢者に対する訪問歯科診療の必要性が叫ばれている。

日本歯科大学新潟病院では、一九八七年から地域での在宅歯科診療を始めて、在宅歯科診療チームを設立し、歯科訪問診療を実施している。

近年、がん治療の現場では、がん患者の劣悪な口腔環境が関連した様々な合併症により、治療完了率の低下や入院期間の延長、QOLの低下が生ずることが問題視され、患者の口腔衛生環境の改善・保持と歯科的管理の重要性が増している。

特に周術期や抗がん剤化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植等における感染予防、口腔粘膜軽減策としての口腔ケアと口腔機能管理は重要になりつつある。

このため歯科衛生士を含む歯科医療従事者は、がん患者の治療や合併症、様々な全身的症状、機能に関するアセスメントを含めた口腔機能管理・口腔ケアに関する知識と技術の修得が求められている。

## 在宅歯科医療 専門の歯科衛生士養成へ

要介護高齢者に対する口腔衛生管理により、嚥下性肺炎の発症率が減少することが報告されている。一方、要介護高齢者の七十四%において歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科治療を受けた者は二十%に過ぎない状況にあるという調査結果があり、要介護高齢者に対する訪問歯科診療の必要性が叫ばれている。

日本歯科大学新潟病院では、一九八七年から地域での在宅歯科診療を始めて、在宅歯科診療チームを設立し、歯科訪問診療を実施している。

近年、がん治療の現場では、がん患者の劣悪な口腔環境が関連した様々な合併症により、治療完了率の低下や入院期間の延長、QOLの低下が生ずることが問題視され、患者の口腔衛生環境の改善・保持と歯科的管理の重要性が増している。

特に周術期や抗がん剤化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植等における感染予防、口腔粘膜軽減策としての口腔ケアと口腔機能管理は重要になりつつある。

このため歯科衛生士を含む歯科医療従事者は、がん患者の治療や合併症、様々な全身的症状、機能に関するアセスメントを含めた口腔機能管理・口腔ケアに関する知識と技術の修得が求められている。

## 在宅歯科医療 専門の歯科衛生士養成へ

要介護高齢者に対する口腔衛生管理により、嚥下性肺炎の発症率が減少することが報告されている。一方、要介護高齢者の七十四%において歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科治療を受けた者は二十%に過ぎない状況にあるという調査結果があり、要介護高齢者に対する訪問歯科診療の必要性が叫ばれている。

日本歯科大学新潟病院では、一九八七年から地域での在宅歯科診療を始めて、在宅歯科診療チームを設立し、歯科訪問診療を実施している。

近年、がん治療の現場では、がん患者の劣悪な口腔環境が関連した様々な合併症により、治療完了率の低下や入院期間の延長、QOLの低下が生ずることが問題視され、患者の口腔衛生環境の改善・保持と歯科的管理の重要性が増している。

特に周術期や抗がん剤化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植等における感染予防、口腔粘膜軽減策としての口腔ケアと口腔機能管理は重要になりつつある。

このため歯科衛生士を含む歯科医療従事者は、がん患者の治療や合併症、様々な全身的症状、機能に関するアセスメントを含めた口腔機能管理・口腔ケアに関する知識と技術の修得が求められている。

## 在宅歯科医療 専門の歯科衛生士養成へ

要介護高齢者に対する口腔衛生管理により、嚥下性肺炎の発症率が減少することが報告されている。一方、要介護高齢者の七十四%において歯科治療が必要であるにもかかわらず、実際に歯科治療を受けた者は二十%に過ぎない状況にあるという調査結果があり、要介護高齢者に対する訪問歯科診療の必要性が叫ばれている。

日本歯科大学新潟病院では、一九八七年から地域での在宅歯科診療を始めて、在宅歯科診療チームを設立し、歯科訪問診療を実施している。

近年、がん治療の現場では、がん患者の劣悪な口腔環境が関連した様々な合併症により、治療完了率の低下や入院期間の延長、QOLの低下が生ずることが問題視され、患者の口腔衛生環境の改善・保持と歯科的管理の重要性が増している。

特に周術期や抗がん剤化学療法、放射線治療、造血幹細胞移植等における感染予防、口腔粘膜軽減策としての口腔ケアと口腔機能管理は重要になりつつある。

このため歯科衛生士を含む歯科医療従事者は、がん患者の治療や合併症、様々な全身的症状、機能に関するアセスメントを含めた口腔機能管理・口腔ケアに関する知識と技術の修得が求められている。